

2022年6月15日

自然電力株式会社
代表取締役 長谷川 雅也 様

日本野鳥の会京都支部
支部長 船瀬 茂信
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 50
アサダ観光ビル 2階 CD 室

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23
丸和ビル

(仮称) 京丹後市磯砂山風力発電事業に対する要望書

貴社が計画されている「(仮称) 京丹後市磯砂山風力発電事業」について、以下の 1~5 に述べる理由に基づき、鳥類保全の観点から、本事業の計画を中止されるよう要望いたします。

本事業計画を中止とすべき理由

1. 鳥類の生息地および生物多様性の消失

事業実施想定区域（以下、計画地という）は、生物多様性保全の鍵となる地域である KBA（Key Biodiversity Area）の「丹後半島」に位置しています。また、計画地の近隣には京都府が指定した「弥栄町スイス村鳥獣保護区」があります。こうした地域で風力発電施設（以下、風車という）を建設すれば、工事や機材運搬のための車両による騒音や作業車の通行などによって環境が攪乱され、野生鳥獣の生息地放棄が生じ、計画地域の生物多様性が損なわれる可能性があります。また、KBA の選定対象種であるアベサンショウウオは、環境省レッドリスト絶滅危惧 IA 類（CR）であり、種の保存法における国内希少野生動植物種に指定されています。風車建設や運搬作業路の整備に伴う土砂流出による水系の濁りにより、本種への影響が懸念されます。

計画地の近隣で京都府が太鼓山風力発電所を運用していた当時の調査では、森林性鳥類の出現種数や個体数は風車との距離が近いほど減少する傾向が確認されています。貴社が公開された「(仮称) 京丹後市磯砂山風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」（以下、配慮書という）には、計画地における「動物の重要な種」として 133 種の鳥類が確認されたと記載されていますが、本事業（計 14 基・最大出力 58,800kW）は、京都府による太鼓山風力発電所（計 3 基・最大出力 2,250kW）に比べて、風車の基数で 4 倍以上、出力数で約 26 倍と規模が大きく、その建設と稼働によって鳥類の生息地の消失と放棄をより引き起こし、その結果、計画地およびその周辺地域の生物多様性が大きく損なわれる可能性があります。

2. 希少猛禽類への影響

配慮書にも記載されているとおり、計画地周辺には、環境省レッドリストで絶滅危惧 IB 類（EN）のクマタカが生息しています。また、ノスリも生息しており、ハチクマの春季の渡り経路にもなっています。先述の太鼓山風力発電所における調査では 2 組のクマタカのペアが確認され、うち 1 組では巣立ち後の幼鳥が観察されています。また、ノスリとクマタカが風車から最短で 50m 付近まで接近したことも観察されています。

京都府改訂版レッドリスト 2021 では、ハチクマおよびクマタカは絶滅危惧種に、ノスリは準絶滅危惧種に指定されています。こうした希少猛禽類が生息・飛来する地域で大規模な風車群が稼働すれば、バードストライクによる被害が発生する可能性があります。また、ローターの回転による騒音やシャドーフリッカーなどが、希少猛禽類をはじめとする鳥類に大きな影響を継続して与えることが考えられます。さらに、建設される 14 基もの風車が鳥類の飛行の障壁となり、飛行経路を変更することによって生息状況への悪影響が生じ、生存率の低下につながる可能性もあります。

3. コウノトリのバードストライク

計画地の南西に位置する兵庫県豊岡市には、国の特別天然記念物・コウノトリの保護施設「兵庫県立

コウノトリの郷公園」があります。同施設と計画地間の兵庫県内には多数のコウノトリ繁殖用の人工巣塔が建てられ、京丹後市内にも 2 基の人工巣塔が建設されています。また、配慮書の「専門家等へのヒアリング結果概要」にも記載されていますが、京丹後市大宮町では 12 羽のコウノトリが確認され、それらの個体が繁殖後に京丹後市、兵庫県、島根県、徳島県、福井県、栃木県などへ飛来したことが確認されています。さらに、京丹後市網野町でも繁殖が確認され、周辺では多くの生息記録があります。

計画地の南に位置する京都府与謝野町でも複数羽のコウノトリが毎年のように確認されており、舞鶴市においても昨年・今年と 2 年連続して繁殖行動が見られています。丹後地方ではコウノトリが確実に増加傾向にあり、これらが採餌のために繁殖地周辺を飛翔したり、前記の保護施設から放鳥されて各地へ移動する際に、風力発電のブレードに衝突する危険性や移動の障壁となる可能性があると考えられます。

4. ハクチョウ類・ガン類、オオミズナギドリのパードストライク

計画地周辺は、ハクチョウ類やガン類の繁殖地と島根県から鳥取県にある越冬地を結ぶ渡り経路になっており、今冬、計画地の西に位置する京丹後市久美浜町にオオハクチョウ 2 羽、コハクチョウ 11 羽、ヒシクイ 5 羽、ハイロガン 1 羽が飛来しました。京都府改訂版レッドリスト 2021 では、オオハクチョウは絶滅寸前種に、減少傾向にあるコハクチョウは絶滅危惧種にランクアップして指定されています。

また、オオミズナギドリは日本近海の一部の離島でのみ繁殖する海鳥で、舞鶴市沖の冠島は数少ない繁殖地の一つとなっていることから、本種は「京都府の鳥」に、冠島は「国の天然記念物」に指定されています。配慮書にも記載されているとおり、冠島を巣立った幼鳥は、これまでの落鳥記録から丹後半島を含む内陸部を渡ることが分かっています。内陸へ移動した場合、これらの鳥が風車に衝突する危険性があります。また、夜間の悪天候時には、灯台や夜間照明器具等に誘引されて衝突事故を起こす事例が多く知られていることから、風車に夜間衝突防止の照明を設置した場合には、誘引と衝突を誘発してしまう恐れもあります。風車の建設によって、これらのハクチョウ類やガン類、オオミズナギドリがパードストライクの被害に遭うことが懸念されます。

5. ブッポウソウの繁殖阻害

日本野鳥の会京都支部では、計画地に隣接する地域において数年前からブッポウソウの生息と繁殖を確認し、現在も継続的に観察・調査を実施しています。ブッポウソウは環境省が絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定しており、京都府でも京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例によって、指定希少野生生物に指定されています。また、京都府改訂版レッドリスト 2021 でも絶滅寸前種に指定しており、京都府レッドデータブック 2015 では「府内では夏鳥として尾越や芦生などへ渡来して繁殖していた。1980 年代に営巣情報が少なくなり、近年の営巣情報はない。(中略) 現在ではときどき渡来例はあるものの、確実な営巣情報は途絶えている」と記載されています。

本事業による長期間の工事やその後の稼働によって、希少な夏鳥であるブッポウソウの繁殖が阻害され、京都府における貴重な生息地が放棄される懸念があります。

以上

<参考文献>

- ・「丹後半島での調査からみえてきたこと 風力発電が特にクマタカ、森林性鳥類に与え得る影響」
中津 弘
https://www.wbsj.org/nature/hogo/others/fuuryoku/shiryo100927_06.pdf
- ・「風力発電が鳥類に与える影響の国内事例」浦 達也 (Strix Vol. 31, pp. 3–30, 2015)
https://www.wbsj.org/nature/public/strix/31/strix31_03.pdf
- ・「風力発電が鳥類に及ぼす影響」風間 健太郎
http://www.yamashina.or.jp/hp/yomimono/windpower_and_birds.html
- ・「近畿地方における最近 10 ヶ年のオオミズナギドリの迷行落下」吉田 直敏
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjo1915/22/93-94/22_93-94_60/_pdf
- ・京都府レッドデータブック 2015 ブッポウソウ
<https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/bird0008.html>
- ・京都府改訂版レッドリスト 2021
http://www.pref.kyoto.jp/kankyo_red/news/documents/kyoto_redlist2021.pdf
- ・環境省レッドリスト 2020
<http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>